

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	8	学 校 名	静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校	校 長 名	青木 暁乃
------	---	-------	--------------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全	地域での安全につながる防災教育	①生徒が、発災時の具体的な行動を理解している。 ②職員が、発災・緊急時にとるべき行動を把握している。	①アンケートにおいて「できた」と回答した 教 員 94.7% 保護者 92% 生 徒 99% ②アンケートにおいて「できた」と回答した 教 員 100%	A	・田農との合同防災訓練やジュニア防災士養成講座の実施など、災害を自分事として捉え体験的に取り組める授業が充実していた。 ・避難訓練では、形式的な避難行動に留まらず、各教員が担当場所からの経路の安全性を見直し、一次避難地を新たに設定するなど改善が行えた。 ・家庭での備蓄や家具固定、居住地区における避難場所などのプリントを持ち帰り、保護者とも情報共有ができた。 ・防災学習は大切。これまでの教材を共有し、授業に活用しながら継続していきたい。
安全	誰もが安心して通える学校	①職員や生徒が、互いの良さや苦手を認め、寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いて関わっている。 ②校内の情報や物品がシンプルに機能的に整理されている。	①アンケートにおいて「できた」と回答した 教 員 100% 保護者 96.6% 生 徒 91% ②アンケートにおいて「できた」と回答した 教 員 73.7%	B	・養護教諭の尽力により、健康面での指導が充実した。引き続き、家庭や地域生活にも返し連携を図りたい。 ・スクールサポーターから定期的に情報を得ることで、安全指導も充実してきている。 ・多くの生徒が学校を楽しみにしているが、人間関係や生活リズムの面で悩みを抱える生徒もいる。本人や家庭に寄り添い、背景を十分に理解した上で、安心できる校内体制作りや地域における最適な居場所へのつなぎを継続したい。 ・教室や廊下の掲示物などの情報整理、デジタルデータの管理が少しずつ進んできている。最適化できるよう、引き続き環境整備を行いたい。 ・PC室や相談室、作業棟などの使用を工夫して、空間の有効活用や構造化をより進められると良い。

様式第3号

専門	多面的な生徒理解と生徒自身の自己理解への支援	①作業学習をはじめとする学習場面において、生徒が主体となって活躍している。	①アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 89.5% 保護者 100% 生徒 99%	B	・ICTの活用により、生徒の多様な表現方法を拾い上げ、意見の吸い上げを行うことができた。更なる活用を進めたい。 ・生徒の情報について、学年を超えて日常的に情報交換を行うことで、学年を越えた理解や指導に繋がった。 ・研修を通して、生徒自身が課題を発見することやその解決に向けた主体的な学びについて、教師側の意識が高まった。 ・作業学習では、終日作業が始まり、一日を通して働く経験を積めるようになり、他団体との協働場面も広がった。今後、協働機会の飽和状態による準備不足が心配されるため、交流機会の精選について検討していきたい。
専門	個に応じた適切な進路決定	①生徒が、勤労観や職業適性について理解を進めている。 ②保護者が、進路選択や職場実習の価値を重視し、協力している。	①アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100% 保護者 96.6% 生徒 89% ②アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100% 保護者 96%	B	・キャリアパスポートを作成し活用することで、生活や学習、実習などを繋げて考えることができ、生徒主体の学びに向かっている。更なる有効活用を進めていきたい。 ・金銭を含めた自己管理など、生活面での支援や指導も、情報提供を含めて更に充実させていきたい。 ・保護者への進路情報提供を充実させることで、本人を含めて家庭の協力を得ながら進路指導を進めることができた。 ・1年生の短期実習など、最適な実施時期を検討していきたい。また、保護者向けの進路説明会の設定など、家庭と連携するための工夫を引き続き進めていきたい。

様式第3号

連携	関係諸機関とのつながりを大切にした切れ目のない支援と指導	①職員が、生徒や保護者のニーズを把握し、必要に応じて面談や関係者会議を実施している。 ②保護者が、生活安定や地域安全の価値を重視し、支援している。	①アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100% 保護者 100% ②アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100% 保護者 92%	A ・出身中学校や保護者、地区行政等との綿密な情報共有を行うことができた。 ・必要に応じて保護者や市町の福祉課とも連携をとり、適宜、関係者会議を実施することができた。 ・中学校からの進路相談や卒業後の就業促進会議など、必要な時期に十分な情報共有ができた。 ・生徒指導案件などは、時期的なものなどから予測して、予防的な指導も進めることができた。
連携	生徒の自立と輝きに向けた共生・共育	①生徒が、田方農業高校との共同学習や行事をはじめ、外部人材との交流学习に積極的に参加している。 ②学校運営協議会から具体的な支援を得ている。	①アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100% 保護者 93.3% 生徒 91% ②アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100%	B ・陶芸や調理などの技術指導に加え、防災指導や主権者教育など、幅広く外部人材から知識を得る機会があった。 ・エスウェルフエスやトマト祭など地域の行事や祭などに参加し、作業製品の販売などで地域貢献することができた。 ・同年代をはじめ、いろいろな立場の方々とのコミュニケーション機会が充実していた。 ・交流の回数が増え、量に対する質の確保が難しくなってきたため、それぞれの交流の意義を確認し、精選していきたい。 ・学校運営協議会から、学校見学の時にその場で直接アドバイスをいただき、すぐに指導に活かすことができた。 ・学校運営協議会との連携により、外部団体との有意義な協働場面が増えた。

チーム	働きがいのある職場	①職員が、本校事務室からの連絡を適時に確認し、連携している。 ②職員が、時数管理や行事計画の工夫などにより、生徒と向き合う時間や教材研究の時間、情報共有の時間を確保している。	①アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 94.8% ②アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100%	A ・本校事務室から、掲示板などを通して書類の書き方や期限などの丁寧な通知があり、前もって計画的に事務手続きの準備を進めることができた。 ・掲示板やCOCOOの活用が進み、印刷や配布、アンケートの回収、集計などの業務改善がますます進んでいる。 ・サーバーの階層やフォルダが整理され、データ活用が進んだ。写真データの引越などもあったが、情報課がスムーズに進め、業務の滞りがなかった。 ・PTA活動にデジタル機器を取り入れることで、仕事の手間が減り、データ作成などの分担もしやすくなった。 ・一部の保護者の中にはPTA活動を負担に感じている方もいる。家庭環境や時代の変化等に合わせて、活動の更なる精選を検討したい。 ・学年内や作業班内での調整が進み、教材研究や生徒の情報共有に充てる時間が以前よりもてるようになった。 ・放課後の会議や部活動指導など、運営の改善に向けて引き続き案を練っていききたい。
-----	-----------	---	--	--